

二〇二二年三月三十一日
発行



第 95 卷 第 2 号 史学・地理学・考古学

論 説

- 宦官エウトロピオスの行政改革……………南 雲 泰 輔 (1)
——ローマ帝国の東西分裂期における宦官権力の確立——
- コンスタンティノープル陥落後の
総主教ゲナディオス 2 世のヘレニズム……………上 柿 智 生 (32)
- 帝国法制の外部展開……………西 山 喬 貴 (70)
——19 世紀中期イギリス対中通商システムの構築——

書 評

- 東村純子著『考古学からみた古代日本の紡織』……………菱 田 哲 郎 (108)
- 藤井讓治著『天皇と天下人』……………跡 部 信 (113)
- 杉江進著『近世琵琶湖水運の研究』……………東 幸 代 (119)
- 石川禎浩著『革命とナショナリズム』……………水 羽 信 男 (125)

紹 介

- ピーター・サルウェイ編『ローマ帝国時代のブリテン島』……………藤 井 崇 (131)

史 学 研 究 会

京都大学大学院文学研究科内

の衰退後には長く存続しなかったことを指摘して、帝国のソフトパワーの限界にも注目する。この点で、本書はバランス感覚にあふれた良書である。

監訳者の南川高志氏は著書『海のかなたのローマ帝国——古代ローマとブリテン島』(岩波書店、二〇〇三年)のなかで、近現代におけるローマ時代ブリテン島の研究が世界情勢(特に大英帝国の繁栄と衰退)との密接な関連のもとにおこなわれてきたことを指摘している。読者は本書を南川氏の著書と併読することで、近現代の研究が時代に寄り添って作り上げた言説としてのブリテン島と、最新の考古学データに基づいてバランスよく描かれたおそらくはより実態に近いであろうブリテン島とを一望のもとにおさめることができる。本書の翻訳によって、ブリテン島は、ローマの帝国統治の虚像と実像を学ぶ格好の素材となったといえるだろう。

(A5判 四二四頁 二〇一一年五月
慶應義塾大学出版会 税込五〇四〇円)

(藤井崇 オクスフォード大学研究員・日本学術振興会)

海外特別研究員)

編集後記

『史林』九五巻二号をお届けします。今号は、論説が三本、書評が四本、紹介が一本という内容になっております。ピザンツの百科事典を手がかりにローマ帝国の宦官を検討する南雲論説、オスマン帝国支配下のピザンツ知識人のアイデンティティを検討する上垣論説、イギリス帝国の対中通商システムを法の運用の問題から検討する西山論説という、西洋史の論説三本を中心に、古代日本の紡織、信長・秀吉・家康と天皇、近世琵琶湖の水運、さらには中国革命とナショナリズムの問題を取り上げた、考古や日本史、東洋史分野の論著の書評を載せることができました。

いづれも読みごたえのある、興味深い論考がそろっており、本号が皆様のお手元に届くころには、ちょうど桜が咲き始めていることかと思えます。『史林』片手におでかけになって、桜のもとでの読書などいかがでしょうか。

春は出会いと別れの季節と申しますが、当会の理事長を歴任されるなど、長らく当会の活動に関わってこられ、ちょうど本号

の発行日に京都大学大学院文学研究科を退職される藤井讓治先生の著作の書評を、本号に載せることができました。全くの偶然ではありますが、その巡り合わせに驚くとともに、先生の教え子といたしましては、本号が今後も研究を意欲的にすすめるであろう先生の門出を祝う花東代わりになったのではとひそかに喜んでおります。

(鍛治 宏介)

◆史学研究会ホームページ・アドレス

<http://www.shigakukenkuyukai.jp/index.html>

二〇一二年三月二五日印刷
二〇一二年三月二二日発行
定価 一、二〇〇円

史 林 第九五巻第二号(通巻第四九二号)

京都市左京区吉田本町京都大学文学部内

電話 (〇七五) 七五三・二七八七
FAX (〇七五) 七五三・二七八七

発行人 史 学 研 究 会

振替京都 〇二〇七〇二二五五番
理事長 夫 馬 進

印刷所 中村印刷株式会社
京都市南区上鳥羽薬田二九

史学研究会例会のお知らせ

左記のとおり、史学研究会例会を開催いたします。参加は無料で、事前の予約も不要です。多数ご来会くださいますよう、ご案内申し上げます。

日時 二〇二二年四月二日（土） 午後一時～六時一五分

場所 京大文学部 新館第三講義室

テーマ 「災害」

プログラム

開会挨拶 史学研究会理事長 夫馬 進

趣旨説明

第一部（午後一時一五分～三時四〇分）

柳澤和明 「貞観一一年陸奥国巨大地震・津波と陸奥国の復興」

窪田順平 「中央ユーラシアにおける環境変動と人間の適応——統合型研究の試み」

楠 義彦 「一六・七世紀イギリスの地震と地震観」

第二部（午後四時～五時三五分）

梶川伸一 「ボリシェヴィキ権力と二二／二二年飢饉」

小田隆史 「グローカル化」時代におきた東日本大震災——「時間・空間の圧縮」の諸相」

質疑および討論（午後五時三五分～六時）

開会挨拶 京大文学部研究科歴史文化学系代表

※プログラム終了後、懇親会（参加無料・予約不要）を予定しております。

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XCV No. 2

March 2012

CONTENTS

Articles :

- NAGUMO Taisuke, *Eutropius and the Establishment of Eunuch Power in the Later Roman Empire* (1)
- UEGAKI Tomoo, *Patriarch Gennadios II's Byzantine Hellenism after the Fall of Constantinople* (32)
- NISHIYAMA Takaki, *An External Foundation of the Imperial Legal Institution: The Construction of the British Commercial System in China, 1842-60* (70)

Book reviews :

- HIGASHIMURA Junko, *Archaeological Perspectives on Spinning and Weaving in Ancient Japan* (HISHIDA Tetsuo) (108)
- FUJII Joji, *Tenno and The Hegemons* (ATOBE Makoto) (113)
- SUGIE Susumu, *A Study of the History of Water Transport in Early Modern Biwako* (AZUMA Sachiyo) (119)
- ISHIKAWA Yoshihiro, *Revolution and Nationalism* (MIZUHA Nobuo) (131)

Miscellaneous :

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI

(The Society of Historical Research)

Kyoto University, Kyoto, Japan

定価 1,200円(税込)

ISSN 0386-9369